

## 大増の大蛇濟度 (茨城県石岡市大増)

(1)「親鸞聖人正明伝」巻三下  
 (「親鸞始記」佐々木正著 P201～P203) より

親鸞聖人が常陸国府から稲田の草庵に帰ろうとされた時のことです。板敷山のいつもの道を通らずに、大増のむこうから若国山の東のかなたの道を通った時のことでした。日はすでに西に傾き、人影がありませんでした。山の麓の沼の淵から大蛇が現れて、聖人の前に向かいました。その長さは三丈に余り、恐ろしい姿です。聖人は大蛇に近寄り「お前は私を殺そうとして現れたのか、何か用があつて出てきたのか」と訊ねると、大蛇は頭を垂れて両眼から雨のように涙を流しています。聖人はその気持ちを察して「仏法には改悔懺悔という大切なことがあります。今夜、稲田の私の庵に来て下さい。蛇身を解脱する法を授けましょう」と語りかけると、喜び

の様子を見せて波の中に姿を消しました。その日の真夜中のころ、女性の声で草庵を訪ねた者がいました。聖人は約束したとおり、自分で戸を開けて招き入れて、蛇身を受けた因縁を懺悔させました。女が言うには「私は猿子村の某の妻でしたが、欲深く意地悪な性格で怒りの心が止みません。僧尼を見ると仇のように思い、女性を見れば怒りの炎が燃え盛ってしまいます。それ以外の悪心も昼夜を問わず起こし続けて、その数は言い尽くせません。そのため死んだ今はこの蛇身を受けて、水中にいながら身は三熱の炎に焦がされて、鱗の内に百千の毒虫がいて肌をついばむのが、針で肉を突くよりも激しい痛みです。どうか私を憐れんで、この激しい苦痛から救って下さい」と雨のように涙を流し身を振って苦しむ様子は、地獄の責め苦を目の前で見ようでした。聖人は聞きおわたつたあと、法門相承の血脈※



大増の大蛇濟度 (人喰橋・蛇塚)



大増の大蛇濟度 (人喰橋・蛇塚)

※

を書いて封じ与えて「よく聞きなさい。海底の竜女は如来の法を信受して即身に成仏し、恐ろしい摩羯大魚も仏の名号を信じて粗暴な心を翻しました。この血脈は比類ないものです。万徳をもつ如来の名号と貴女の法名が記してあります。深く信仰して今の畜生の身を離れなさい」と懇ろに教えて帰らせました。

その後しばらくして、その池に大蛇の死骸が浮かんでいるという話を耳にしました。聖人は不審に思いつつ池に行ってみると、まさしくこの大蛇でした。頭の鱗の間に聖人から頂いた「涼光」という血脈を載せていました。聖人はたいへんに哀れんで、近くの大増村の人々と相談して死骸を埋めて大きな塚を築き、三日三晩読経と念仏をして

吊いました。大勢の人々が参詣して、あたかも市のようなものでした。三日目の夜、天から花が降り、天人が下りて聖人に向かい、真心を込めて礼拝しました。そして言うには「私はこの池の大蛇です。灼熱の苦しみの中で何年も過ごしました。けれどもこのたび素晴らしい師に出会い、親しく教えに与かって、速やかに蛇身を離れて天人の身を頂きました。この境界から浄土に往生することは最もたやすいことです。今お礼のため、天女の姿となって地上へ下りてまいりました」と語ると、雲に乗って戻っていきました。集まった男女のすべてが、聖人の教えに帰したことは言うまでもないことです。

## (2)「涼光ヶ池の大蛇濟度」より

大覚寺にはいくつかのお話、伝説があります。一つには親鸞聖人の大蛇濟度、念仏塚があります。親鸞様がこの関東に来られましたのは、1214年 建保2年頃、この大覚寺の前のあたり今の恋瀬川のあたりには大きな沼があったと言われていす。この沼には大きな蛇（大蛇）が住んでいて、近くを通る人を食べてしまうということです。この村の人たちは大変困ってしまいました。その頃、親鸞様という立派なお坊さんが稲田の草庵におられました。そして大覚寺にも来ておられましたので、村の人たちは親鸞様をお願いをして、この大蛇を何とかしてもらおうと草庵を訪ねました。この話を聞いて、早速この涼光が池に来て、いくつもの小石にお経の文字を書いて池に投げてあげました。その後、ある晩、草庵の戸を叩く音がしました。親鸞様が「こんなに夜遅く訪ねてくるとは誰でしょう」不思議に思いながら戸を開けてみると、そこには女の人立っていました。「こんなに夜遅くどうされましたか」と親鸞様が尋ねると、女の方は「実は私は大覚寺前の沼の大蛇です。私は、元当国猿子村の何某の妻です。病弱にて長い間伏せておりました。夫は野良仕事に精を出しておりますが、夜になると出かけるのです。夫は妻の病気が早く治るとと神社に願をかけていたのです。そんなことはちっとも知らず、私は外に女ができたと思い、ある晩そっと後をつけたのです。途中で姿を見失い、私はのどが渴いたので小川で水を飲もうとしたのです。ところが水に映った私の姿は、恐ろしい鬼のような姿に見えました。私はこんな姿かと思い、そのまま小川に飛び込み大蛇になりそのうちに大覚寺前の沼に住むようになってしまいました。そして、通る人を食い、嵐を呼び田畑を荒らし、人々を困らせておりました。今日、親鸞様にお経を称えて頂きめでたく成仏させていただきました。そのお礼に参りました。ありがとうございます。親鸞様はその話を聞くと女の方に「涼光」という法名を与えました。数日後、沼には

大蛇の亡骸がありました。口には「涼光」という親鸞様から頂いた法名をくわえておりました。村の人たちは、この大蛇の亡骸を近くに埋めてお墓を建てて弔いました。それからは涼光ヶ池と名付けた池で大蛇が人を食べる話はなくなりました。

今は涼光ヶ池はありませんが、後にその場所に橋ができました。その橋を「人喰い橋」、亡骸を埋めたところは「蛇塚、念仏塚」としてお墓が残っております。

